高速道路がサギのすみかになったわけ

自然と人とが、共に生きていくために

2011年3月23日 初版発行
2019年3月20日 改訂版発行

編集：サギと高速道路との共生を考える会合
中日本高速道路株式会社　名古屋支社桑名保全・サービスセンター
財団法人愛知公園協会　弥富野鳥園事務所
日本野鳥の会愛知県支部

発行：中日本高速道路株式会社　名古屋支社桑名保全・サービスセンター
〒511-0854 三重県桑名市大字蓮花寺字鍋谷 608-2

制作：リンコムアソシエーツ有限会社

印刷：サンメッセ株式会社

高速道路がサギのすみかになったわけ

自然と人とが、共に生きていくために

はじめに

毎年春になると、高速道路のインターチェンジにどこからともなくサギがやってきて、ループの中や道路わきの樹木で巣作りを始めヒナを育て、そして秋になると巣立った若鳥とともにまたどこへともなく去っていきます。その数は数千羽にものぼり、春から秋にかけて大きなコロニー（集団営巣地）を形成します。ここは愛知県の西部にある東名阪自動車道の蟹江インターチェンジと弥富インターチェンジ。

いったいサギはどこからやってくるのでしょう？それに、たくさんの車が昼も夜もひっきりなしに行きかう高速道路の中。うるさいしとても安心して子育てできる場所とは思えないのですが・・・、どうしてこんなところにサギたちは集まって子育てをするようになったのでしょう？

じつは、私たちの暮らしの変化の中に、サギたちがここで子育てするようになったワケがかくされているのです。

このお話では、インターチェンジで不思議な光景を目にしたリクくんとアカリちゃんが、高速道路に集まるサギのなぞ解きを通じて、開発と自然、生きものと人とのかかわり、生物多様性の意味と大切さを学んでいきます。

私たちも「高速道路がサギのすみかになったわけ」をリクくんやアカリちゃんといっしょに考えていきましょう。

企画・構成	梁川俊晃・伊藤康宏・清水元一
ディレクション	黒岩歩・広瀬由利子
ブックデザイン	櫻井ゆか
イラスト	高藤暁子
写真提供	日本野鳥の会愛知県支部 （清水元一・松浦盛夫・三浦皓・大橋信弘） NEXCO 中日本 伊藤一己 Yachoo! オンライン野鳥図鑑　（Garizou）

高速道路が サギのすみかになったわけ

自然と人とが、共に生きていくために

ぼくはリク。姉ちゃんはアカリ。

このまえパパといっしょに弥富野鳥園に行った時、

東名阪自動車道の蟹江インターチェンジで

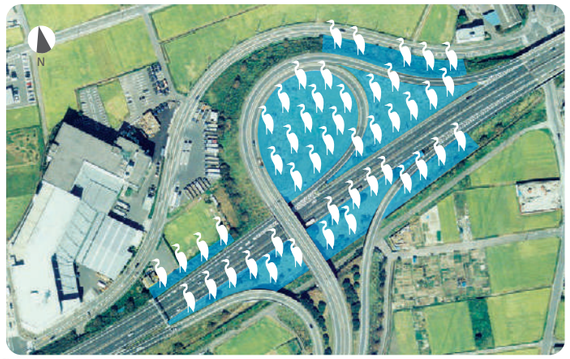
ふしぎな光景に出会ったんだ。

おどろいたことに、
インターチェンジの木々に
たくさんの白い鳥たちが集まっています。

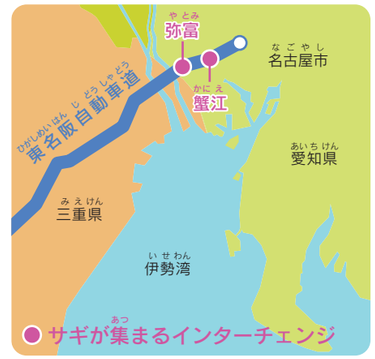
鳥のことをよく知っている
野鳥の会サポーターのパパ

東名阪自動車道の蟹江インターチェンジと弥富インターチェンジには、毎年春になると数千羽もの白い鳥が集まってきます。たくさんの車が昼も夜もひっきりなしにビュンビュンと行きかう高速道路の中。うるさいし、とても安心して子育てできる場所とは思えないのですが･･･、いったいどうしてこんなにたくさんの鳥がすみついたのでしょうか。

ここに鳥たちが集まっています。



東名阪自動車道　蟹江インターチェンジ



集まっているのは６種類のサギたち。
はるばる遠い南の国から
やってくるサギもいます。

インターチェンジに集まっているのは６種類のサギ。春から夏になると約4000羽※ものサギが飛来してきます。その中でアマサギやチュウサギは、フィリピンやインドネシアなどの南の国からわたってきます。

また、アオサギ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギは、冬はねぐらを変えたり国内で移動したりする鳥です。

※2008年８月調査に基づく推定

アマサギ

わたり鳥

全長 約46－56cm

夏の羽根は頭、首、背中が「あま色」になる。
田んぼなどにいる昆虫を食べる。

チュウサギ

わたり鳥

準絶めつ危ぐ種
（くわしくは14ページ）

全長 約65－72cm

くちばしは夏には黒色、冬は先だけ残して黄色に。
かわいた場所でバッタなどの虫をとる。

コサギ

全長 約55－65cm

くちばしは黒色、足先は黄色をしている。
かくれている魚を足で追い出してつかまえる。

ダイサギ

全長 約80－104cm

春過ぎには目もとが青く、足が赤くなる。
じっと立って魚を待ちかまえてつかまえる。

アオサギ

全長 約90－98cm

からだが大きく、羽根はくすんだ青色。
小魚、カエル、エビやカニ、虫などを食べる。

ゴイサギ

全長 約58－65cm

昼は休んでいて、夜に出てきてエサをとる。
水辺を歩きまわってカエルや魚、虫などをとる。

飛んでいるサギの見分け方を学んで名前を当ててみよう。

飛んでいるサギを見て、その名前を当てることができるでしょうか。
右の3段階で見分ける方法がおすすめです。
この順で観察してみましょう。
空を飛んでいるサギを見つけたら、実際にやってみてください。

3段階で見分ける方法

1. 羽ばたきの速さ
2. クチバシの長さ
3. 全体の印象

〈 羽ばたきが遅いグループ:ダイサギとチュウサギ 〉

ダイサギ

❶羽ばたき:ゆっくり(約3.0回／秒)。❷クチバシ:長い。❸全体の印象:足が尾羽から長く突き出ている。飛ぶときに首を曲げた部分が下側に大きく出っぱる。ねぐらへは、ほとんどが単独で帰ってくる。

チュウサギ

❶羽ばたき:ゆっくり。ダイサギよりは少し早い(約3.2回／秒)。❷クチバシ:ダイサギより短い。❸全体の印象:尾羽から突き出る足がダイサギより短く、首の下の出っぱりも小さい。ねぐらへは単独または群れで帰ってくる。

〈 羽ばたきが早いグループ:コサギとアマサギ 〉

コサギ

❶羽ばたき:早い(約3.6回／秒)。❷クチバシ:長い。❸全体の印象:足は短くやや斜め下に垂れていてバランスがよくない感じ。足の指が黄色いので見分けやすい。ねぐらへは、ほとんど単独で帰ってくる。

アマサギ

❶羽ばたき:せわしなく羽ばたく(約3.6回／秒)。❷クチバシ:オレンジ色で短め。❸全体の印象: 5月から8月頃までは、頭から首の前部、背中がオレンジ色になるが、夕方には見分けにくい。ねぐらへは、群れで帰ってくることが多い。

〈 全体の印象から見分けるグループ:アオサギとゴイサギ 〉

アオサギ

❶羽ばたき:6種類のサギの中では最も遅く、ゆったりフワフワと飛ぶ。❷クチバシ: 太く大きい。❸全体の印象:大型で、翼と体の“くすんだ青い灰色”に特徴があって見分けやすい。ねぐらへは、ほとんど単独で帰ってくる。

ゴイサギ

❶羽ばたき:夜行性で確認が難しい。「クワッ、クワッ」と夜空から鳴き声が聞こえる。❷クチバシ:短い。❸全体の印象:ずんぐりとした体形。頭と背中が青黒く、翼は灰色。他のサギがねぐら入りする頃にエサ取りに飛び立っていく。

サギは身を守るためにたくさん集まって巣をつくり、子育てをします。

サギのコロニー

サギの子育て

子育ての時期になると、サギたちはタカなどの敵から身を守るために集団をつくって巣づくりします。これをコロニー（集団営巣地）といい、１本の木にちがう種類のサギが混じり合って巣づくりすることもあります。
サギたちはここで卵を産み、近くの田んぼやため池などのエサ場で小魚やカエルなどをとってヒナを育て、秋になると南の国や他の地方へ帰って行くのです。

春

親鳥がタマゴをだいてるよ

ヒナがかえったね！

初夏

「おなかがすいたよ、ママ」

夏

しっかりしてきたね

秋

すっかり一人前だね

だいぶ大きくなったよ

野鳥のヒナを見つけてもひろわないで！

ひろうと親鳥が見つけられなくてヒナが生きていけなくなるんだよ。

昔はあちこちに
サギのすむ里山があって
人びととなかよく暮らしていました。

田んぼでエサをとるチュウサギ

少し前の日本では、全国各地に「サギ山」とよばれるサギのコロニーが見られました。里山近くの林をねぐらとし、田んぼや小川やため池でカエルや小魚、虫を追うサギたち。民話や伝説にも語られた、そんな日本のなつかしいふるさとの風景の中で、サギたちは人びとと共に、のんびり生きていました。

鈴のくれた 雨

愛知県豊明市間米町の八幡社に伝わる民話

日でりに苦しむ村で、三日三晩も雨ごいを続け、村人たちが「うとうと」しはじめた時、白いサギにまたがり手に鈴を持った仙人が空からおりてきました。「天にも雨はない。だがおまえたちは心がけがよいから、山おくにわいておる清水をこの鈴にくんで来たら、雨をふらそう」言われるとおりにしたところ、次の日にこの村にだけ、はげしい雨がふったということです。

サギにちなんだ
伝説や昔話は
けっこう多いよ。
昔は人となじみの深い
鳥だったんだね。

町が広がり、
暮らしが豊かになるにつれて
サギのすむ場所が減ってしまいました。

都市や産業が発達するにつれて、かつての森や田園地帯はつぎつぎ住宅地や工場に変わり、サギのすむ場所がなくなっていきました。田んぼの水路がコンクリートで固められたり農薬が使われたりして、サギのエサになる魚や小動物がとれる場所も減っていきました。しかたなく神社や公園にすんだサギは、鳴き声やフンのために、まわりの住民たちにきらわれ追い出されるようになりました。

小魚やカエルがすみにくいコンクリートの水路

フンでよごれた木の枝

住宅や工場の開発で
森や田んぼがどんどん減ったし
町からも追い出されて
しまったんだ。

住宅地を歩くコサギ

数千羽、数万羽いたコロニーが
丸ごとなくなったりして、
サギはだんだん減ってきています。

かつては国の特別天然記念物に指定され、昭和30年代には約3万羽ものサギがいた埼玉県の「野田のさぎ山」は、昭和50年までにすっかり消えてしまいました。一見たくさんいるように見えるサギですが、だんだん生息地が失われていくことで数が減っているのです。中でもチュウサギはレッドデータブックの「準絶めつ危ぐ種」に指定されるほどに減ってしまいました。

準絶めつ危ぐ種に指定されているチュウサギ

レッドデータブックとは･･･

絶めつのおそれがある
野生生物についてまとめた本

準絶めつ危ぐ種とは･･･

すぐにではないが、
場合によっては絶めつする
おそれがある野生生物

すみかにしていた自然が開発によって失われたり、人間がとりすぎたりして数が減り、絶めつの危機にある動物や植物は世界中にたくさんあります。なんと毎年4万種もの動物や植物がこの地球から姿を消しているのです。

中部地方で絶めつのおそれがある鳥

ブッポウソウ

ライチョウ

コノハズク

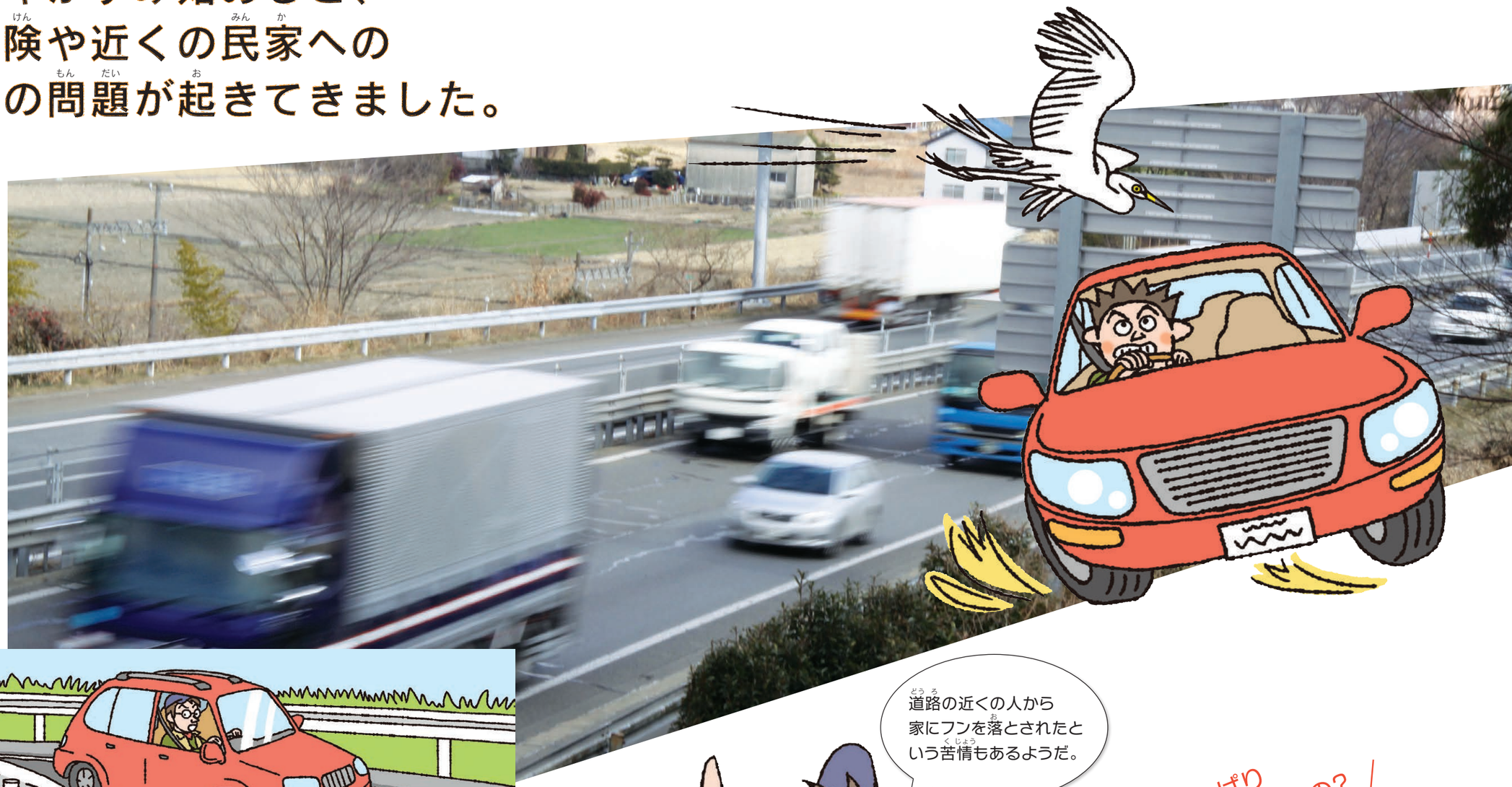
ところが、すむ場所をなくしたサギたちは
高速道路のなかに安住の地※を見つけました。

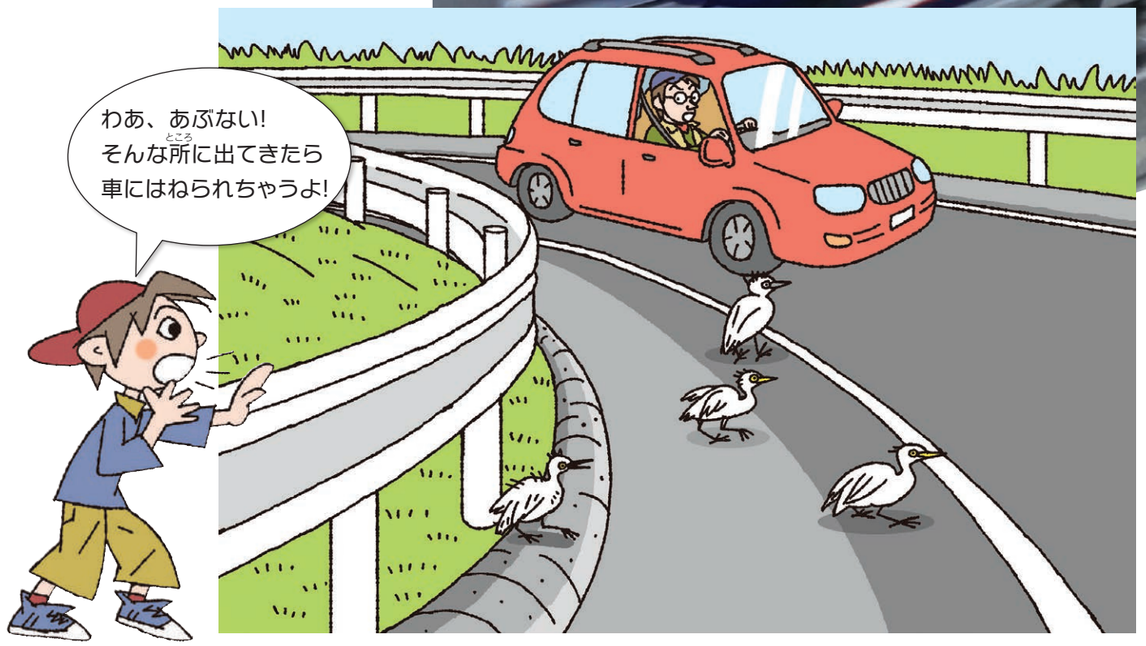
いまやタカやキツネではなく、人間がサギの天敵になりました。しかしサギたちは、ついに絶好の場所を見つけました！エサ場があって、人が近づきにくい安全なすみか。それが高速道路のインターチェンジの中だったのです。まわりには自然の水路や池が残り、農薬の使用が減った田んぼには、サギのエサとなるカエル、小魚、虫などがたくさんいます。まさに高速道路は、サギにとって「安住の地」※だったというわけです。

※安住の地：何の心配もなく落ち着いて住める場所

高速道路にサギがすみ始めると、車の事故の危険や近くの民家へのめいわくなどの問題が起きてきました。

高速で走る車の前をとつぜんサギが横切ったり、道路に幼鳥がはい出したり。あわてたドライバーが急ハンドルをきったりすればとても危険です。幼鳥が車にひかれることも増えてきました。また車の上や周辺の民家にフンを落とされた、などといった苦情も時に寄せられるようになりました。





結論を出す前に、ここで少し自然の生きものについて考えてみましょう。

**生きものたちは
みな、つながり合って
生きています。**

自然の中には目に見えないほど小さな微生物から、草や木、虫やカエルやトカゲたち、大きな草食動物や肉食動物まで、食べたり食べられたり、利用したりされたりしながら、お互いにかかわり合って生きています。もしそのうちのひとつが抜けたら、他の生きものが生きられなくなるかもしれません。だから生物多様性を保つには「いのちのつながり」を守ることがとても大切なのです。

※生物多様性:たくさんの生きものがつながりあい、バランスを取って生きていること。

※プランクトン：水中をただよう、とても小さな植物や動物のこと

人間の都合だけで考えると
どうなるかを知ることも大切です。

**人間も自然や
生きものたちとの
つながりなしには
生きていけません。**

人間は、さまざまな動物や植物から計り知れないほどたくさんのめぐみを受けています。私たち人間は、びみょうなバランスで成りたっている「生きものたちのつながり」と、決して無関係ではいられません。身近な生きものがすむ環境と人びとの暮らしとの折り合いをつけて、共に生きていくことが大切です。人と自然のいのちはつながっているのですから。

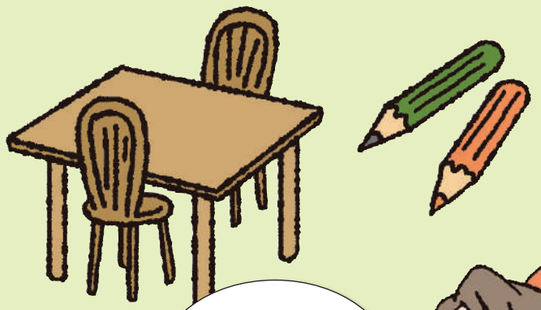
きれいな水や空気は、森の木々のおかげ

自然や生きものたちから、人間はたくさんの「めぐみ」をもらっている。

食べ物や医薬品

お米を食べるからといって、
もしスズメをたいじして
しまったら、夏に害虫がふえて
もっと困るんだって。

住まいや道具の材料



よく考えてみると
食べ物のほかにも
いろいろあるのね。

衣類や紙製品

できることなら、
サギと高速道路が共に生きる
「共生」の道を選ぶことが理想です。

コサギ

人間や高速道路にとって危険でめいわくなサギを追い出すことはかんたん。巣をつくる木をぜんぶ切ってしまえばいいのです。でも、それでいいのでしょうか。よく考えてみると、車の安全とサギのすみかの両方をうまく守る方法さえ工夫すれば、逆に、すみかを追われたサギを守る場所として高速道路が役立つのではないでしょうか。サギと人とが共に生きていく「共生」の道を選べば、人と生きものたちとの「いのちのつながり」を、守ることもできるのです！

サギのたちば

安心して子育てができる場所をせっかく見つけたので、すまわせてほしい！

高速道路のたちば

車の危険やめいわくを考えれば、追い出すことは簡単なんだが・・・

そうか！高速道路があるからこそ
すむ場所を追われたサギを
守ることができるんだ。

NEXCO中日本

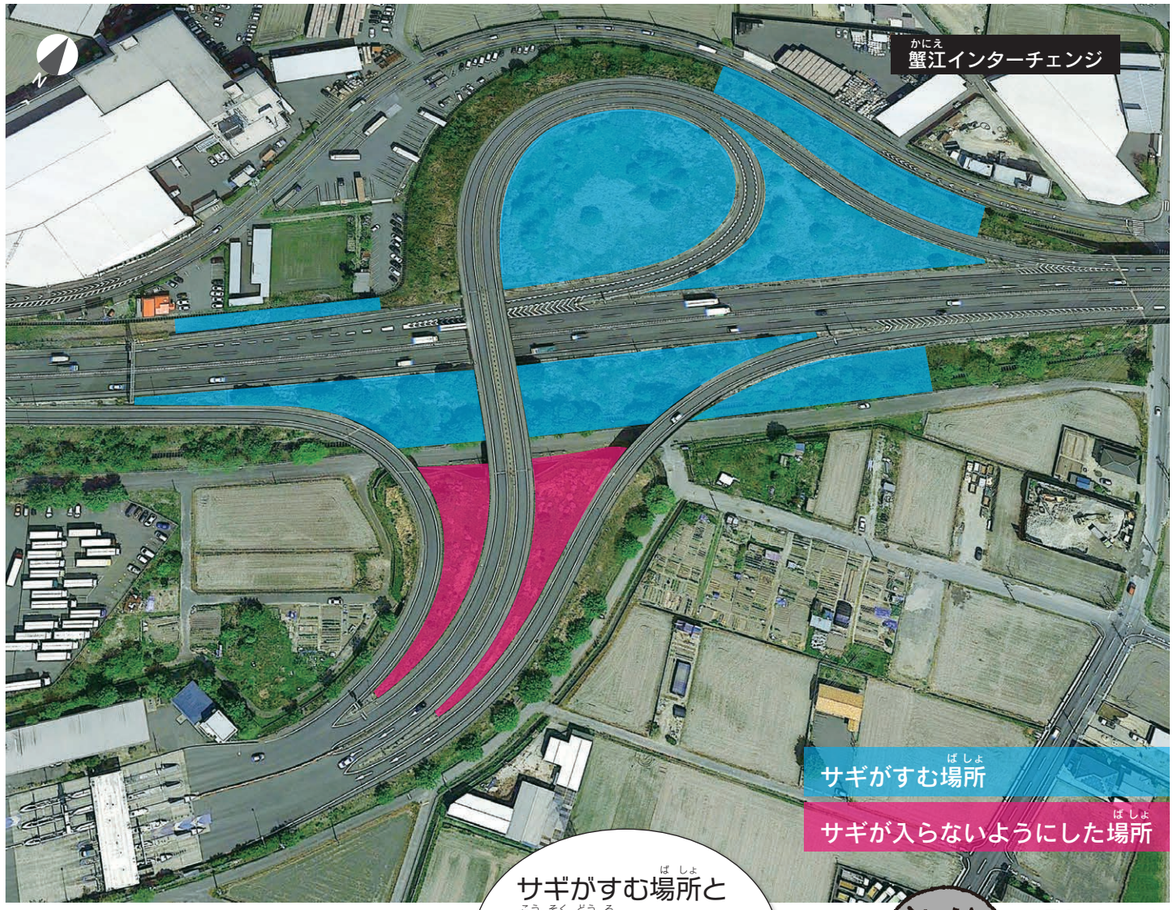
サギと高速道路が共生する道を選ぼう!

サギのすみかや
環境を守る

高速道路の働きや
安全を守る

サギと共生するために-1

道路とサギのすむ場所をきちんと分ける。



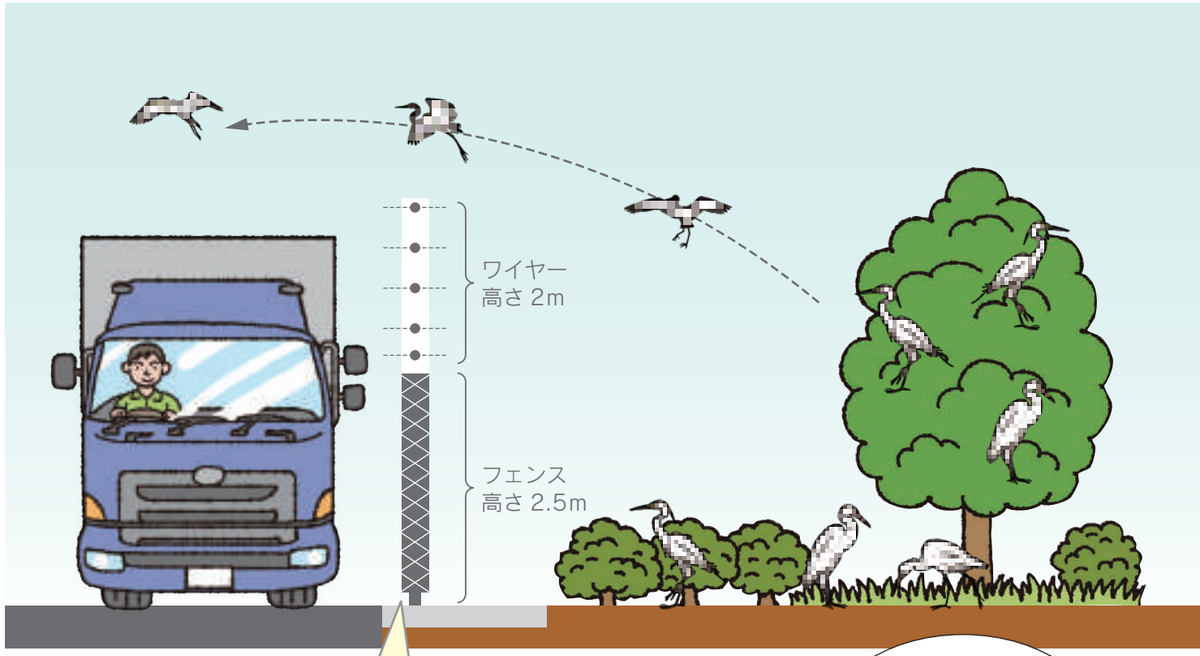
地図：Googleマップより

高速道路やインターチェンジの中でサギが巣づくりをしても危険が少ないところを「サギがすむ場所」と決め、道路とはっきり分けることにしました。そのサギがすむ場所をフェンスで囲み、幼鳥が高速道路にはい出すのを防ぐのです。またフェンスの上に高くワイヤーを張ってサギが高いところを飛ぶようにし、車とぶつからないように工夫しました。

弥富野鳥園所長

フェンス

ワイヤー



フェンスの下部

サギと共生するために-2

ドライバーに注意をうながして危険を減らす。

高速道路入り口のけいかい標識

高速道路の入り口にサギの絵の標識が立っているわ!

高速道路を走るドライバーがおどろかないように、サギの絵を書いた「鳥注意」の標識を立てたり、交通情報を知らせる情報板に「鳥飛来走行注意」と表示したりして、注意を呼びかけるようにします。こうした取り組みによってサギが車にぶつかったり、幼鳥がひかれたりする事故も減り、高速道路の安全を守ることもできるようになりました。

高速道路内の情報板

料金所の情報板

サギと共生するために-3

みんなで協力しあって サギがすめる環境を 守り続ける。

高速道路の管理をしている「NEXCO中日本」は、いっしょにサギを守る力になってもらうよう、野鳥の専門家の「愛知県弥富野鳥園」と、野鳥を守る「日本野鳥の会愛知県支部」に呼びかけをしました。そして「サギと高速道路との共生を考える会合」に参加してそれぞれが役割を果たすことによって、サギと高速道路が共生していく活動をこれからもずっと続けていくことを、おたがいに約束しました。

NEXCO中日本

愛知県弥富野鳥園

日本野鳥の会愛知県支部

アドバイス

報告

サギと高速　道路との共生を考える会合

意見を聞く

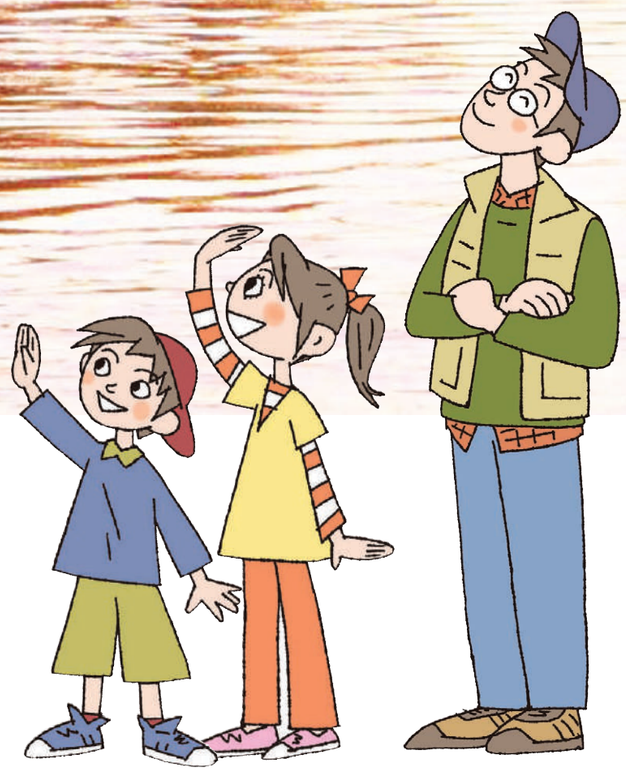
情報を知らせる

まわりの住民・ひろく社会の人びと

サギと人とが共生するというのは
豊かな自然を
守り育てていくことなんですね。

何千羽ものサギのコロニーがあるのは、サギが安心して生活できる場所があり、近くの田んぼや小川などにエサがたくさんあるからです。つまりサギが生きていることで、その周りには豊かな自然が保たれていることがわかります。

田んぼにサギが遊ぶ昔ながらの風景を大切にし、人と自然が共生していくために私たちはこれからどうしたらいいのか。みんなでしっかり考えていかなければならない時代ですね。



東名阪自動車道の弥富ＩＣと蟹江ＩＣに飛来・営巣する「サギと高速道路との共生に向けた連携・協力に関する覚書」

2010年８月28日、インターチェンジ敷地内に集団営巣しているサギの生息環境を保全するための覚書が取り交わされました。

覚書の概要

【目的】

ＮＥＸＣＯ中日本、愛知県弥富野鳥園、日本野鳥の会愛知県支部が連携・協力して、高速道路の機能と安全を損なうことなく、サギの生息環境を保全し、自然（サギ）と人（高速道路）との共生を継続的に図っていく。

【連携・協力の内容】

1. 営巣期と非営巣期の年２回、「サギと高速道路との共生を考える会合」（考える会）を３者で開催し情報や意見を交換する。
2. 日本野鳥の会愛知県支部は、サギの継続的なモニタリング調査を計画・実施し、ＮＥＸＣＯ中日本は、調査に協力する。
3. 愛知県弥富野鳥園と日本野鳥の会愛知県支部は、考える会においてＮＥＸＣＯ中日本に専門的な見地からアドバイスする。
4. ＮＥＸＣＯ中日本は、アドバイス等を参考に生息域の維持保全に努める。また、実施した作業や状況を考える会で報告する。
5. 生物多様性などの環境教育や野鳥保護思想の普及啓発のため積極的な情報発信を行う。

サギと高速道路との共生を考える会合

中日本高速道路株式会社（ＮＥＸＣＯ中日本）

名古屋支社　桑名保全･サービスセンター
〒511-0854　三重県桑名市大字蓮花寺字鍋谷608-2
TEL:0594-23-3561　FAX:0594-23-1310
URL:http://www.c-nexco.co.jp/

東名阪自動車道（名古屋西インターチェンジ～伊勢関インターチェンジ間）　54.3㎞
伊勢湾岸自動車道のうち飛島インターチェンジ～四日市ジャンクション間　17.6㎞
新名神高速道路のうち四日市ジャンクション～甲賀土山インターチェンジ間 45.7㎞
（新名神高速道路 亀山連絡路を含む）
東海環状自動車道のうち大安インターチェンジ～新四日市ジャンクション間　7.8㎞
合計延長125.4㎞の高速道路や休憩施設の維持管理や営業を行っています。

愛知県弥富野鳥園

公益財団法人愛知公園協会　弥富野鳥園事務所
〒498-0067愛知県弥富市上野町2-10
TEL:0567-68-2338　FAX:0567-68-4820
URL:https://www.aichi-park.or.jp/yachou/

木曽、長良、揖斐川の三大河川により形成された干潟、葦原等の渡り鳥の中継地に、調査･観察及び保護の普及啓発を目的に昭和50年に開園し、現在までに226種類の野鳥が観察されています。大型双眼鏡により野鳥の観察ができる展望室や、野鳥のはく製や写真を展示する資料室等を備えた本館があり、どなたでも自由に無料で見学できます。

日本野鳥の会愛知県支部

事務所
〒462-0844 名古屋市北区清水５丁目 10-8 グリーンフェロー３Ａ
電話･FAX：052-912-9531
URL：http://www.wbsj-aichi.org/

野鳥を通じて自然のすばらしさに接し、野鳥や多くの生きものたちのすむ自然を大切にするために （1）探鳥会の開催 （2）野鳥に関する調査・保護活動 （3）自然環境の保護に関する提案・調査　などを行っています。

この本を読んで、あなたが思ったことは？

●サギが高速道路のインターチェンジに住んでいることについて

●サギの子育てについて

●サギと田んぼの関係(かんけい)について

どうすれば、サギと人は共生(きょうせい)できるでしょう？

●自然(しぜん)の生き物と人の暮(く)らしについて、どのように考えていますか？

●サギについて、わたしたちが気をつけることは何でしょうか？

●サギなどの野生動物と人は、どうすれば共生(きょうせい)できると思いますか？